



Global Network
on Extremism & Technology

敵から学ぶ：人種・民族的な
動機に基づく暴力的な過激派は
どのようにしてイスラム国の先端技術の
利用を受け入れ、模倣するのか

Yannick Veilleux-Lepage, Chelsea Daymon および Emil Archambault

エグゼクティブサマリーと概要

GNETはロンドン大学キングスカレッジの *International Centre for the Study of Radicalisation* (ICSR：過激化研究国際センター) が取り組む特別プロジェクトです。

本レポートの著者は
Yannick Veilleux-Lepage, Chelsea Daymon
および *Emil Archambault* です。

Global Network on Extremism and Technology (GNET: 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク) はテロリストのテクノロジー利用の理解と対抗措置のために業界が資金提供する独立したイニシアティブ、Global Internet Forum to Counter Terrorism (GIFCT: テロリズムに対抗するためのグローバルインターネットフォーラム) の支援を受けた学術研究のイニシアティブです。GNETはロンドン大学キングスカレッジの戦争研究学部の学術研究センター、International Centre for the Study of Radicalisation (ICSR) により召集され、統制されます。本文書に含まれる見解と結論は著者の見解と結論であり、明示、暗示を問わず、GIFCT、GNETまたはICSRの見解と結論を代表するものではありません。

お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **@GNET_research**

本エグゼクティブサマリーと概要は複数の言語（アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語および日本語）で提供されています。GNETのその他の出版物同様に、これらおよびレポート全文（英語のみ）はGNETのウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

© GNET

エグゼクティブサマリー

テロリストの同盟が存在することはテロリズム研究において十分実証されているが、¹ テロリスト集団がいかに敵対者の戦術、手法および手順（TTP: tactics, techniques and procedures）を学び、模倣するかについてはまだほとんど調査されていない。本レポートは既存のテロリストの革新に関する文献に基づいてどの要因がテロリスト集団による新しい TTP の採用を促す、または防ぐかを理解するための枠組みを紹介する。

本レポートはクラウドベースのメッセージングアプリ、武器化された無人機およびソーシャルメディアボットという3つの先端技術に焦点を定め、人種・民族的な動機に基づく暴力的過激派 (REMVE: racially and ethnically motivated violent extremists) がいかにイスラム国に由来する慣行を採用した、または採用しなかったかについて考察する。本レポートは技術的、集団および知識の移転という3つの要因を通じてこの採用または非採用について解説する。本レポートは技術的な容易さ、集団構造の類似性およびオンラインコミュニケーション環境、および利用できる知識の移転経路が REMVE が Telegram などのクラウドベースのメッセージングアプリを利用するイスラム国の慣行を採用した理由であると論じる。反対に、高い技術的コストと低コストの代替手段、異なるグループ構造、目標、支持者および記述的な知識の移転不足という反対のダイナミクスは REMVE によるドローンの利用がわずかなままである理由を説明している。最後に、REMVE はクラウドベースのメッセージングアプリを採用したが、異なるコミュニケーション目的とより寛大なオンライン環境によりボット技術の利用はイスラム国よりずっと少ない。

1 参考資料 Victor H. Asal, Hyun Hee Park, R. Karl Rethemeyer and Gary Ackerman, "With Friends Like These... Why Terrorist Organizations Ally," *International Public Management Journal* 19, no. 1 (2016): pp. 1–30; Tricia Bacon, "Alliance Hubs:Focal Points in the International Terrorist Landscape," *Perspectives on Terrorism* 8, no. 4 (2014): pp. 4–26; Tricia Bacon, *Why Terrorist Groups Form International Alliances* (Philadelphia:University of Pennsylvania Press, 2018); Navin A. Bapat and Kanisha D. Bond, "Alliances Between Militant Groups," *British Journal of Political Science* 42, no. 4 (2012): pp. 793–824; and Michael C. Horowitz and Philip B. K. Potter, "Allying to Kill:Terrorist Intergroup Cooperation and the Consequences for Lethality," *Journal of Conflict Resolution* 58, no. 2 (2014): pp. 199–225.

概要

本レポートはテロリストの技術的革新、特にテロリストによる先端技術の採用に関して探究する。より具体的に言うと、本レポートは理論上の学習の枠組みを精密化することによってテロリスト集団がいかに関わるセキュリティ、イデオロギー・政治的環境で活動するイデオロギーの敵対者の慣行を採用できるかについて調査する。本レポートはイスラム国 (IS: Islamic State) および人種・民族的な動機に基づく暴力的過激派 (REMVE: racially and ethnically motivated violent extremists) による3種類の先端技術の利用を調査することによってイデオロギーの異なる集団がお互いの慣行を採用する理由を明らかにする。

本調査で説明する理論的枠組みはテロリスト集団による新しい手法、戦略または手順 (TTP: tactics, techniques and procedures) の採用に役立つ、または採用を妨害する数々の要素を浮き彫りにする。技術的な特徴、集団の要素および知識移転の要素は過激派集団が学ぶ方法を決定する主なタイプの要素である。これらの3つのタイプの特徴は何故集団がイデオロギー上の敵対者と関連する慣行を採用する理由と採用しない理由を説明するのに役立つ。テロリスト集団は賛同者や支持者から学び、新しい手法を考案するだけでなくイデオロギー上の敵対者と関連する慣行を採用することがある、本レポートはISからREMVEへのTTPの伝達 (または非伝達) に注目してそのような場合を分析する。

本レポートは3つの先端技術と、REMVEによる利用 (または非利用) がISの過去の慣行からいかに影響を受けたかを考察する。第一に、クラウドベースのメッセージングアプリの利用はREMVEがISの慣行を直接採用したことを示している。同様の環境的制限、集団のダイナミクスおよびしっかり練り上げた知識の移転の存在がそのような採用を説明している。第二に、ISは高度なドローンプログラムを確立したが、REMVEのドローンの利用はわずかなままで、ISの慣行と大きく異なっている。REMVEは異なる環境で様々なレベルのリソースを用いて異なる目的を追求しているため、より複雑でなく、リソース集中度がより低く、支配的な手法との両立性がより高い (銃乱射などの) 「試験済みの」手法を好んだ。最後に、ISは敵対的なネット環境において繁栄するためにポット技術に大きく頼り、高度に中央化されたメディア制作ユニットと、提携していない共鳴者で構成される集団構造を活用したが、REMVEで組織された集団は異なる目的と彼らが活動するオンライン環境がより寛容であることにより、今までのところポットの広範な利用を避けてきた。

したがって、本レポートは暴力的な集団が直近のイデオロギー的、政治的および文化的領域を超えて活動する非常に幅広い環境に注目している。それ故に、より広範な革新環境は規定の集団がいかに関わるかを左右するかもしれない。また、集団がいかに関わり内で知識を広めるかもイデオロギー的に対立する集団がお互いの慣行を採用することに貢献する。例えば、英語を話す共鳴者層に届くようにISが資料を英語で公表したことはREMVEへの知識の移転を容易にした。しかし、新しいTTPの採用は自動的ではない。技術的、集団および知識の移転の要素は新しい暴力的慣行の流付と採用を説明するのに引き続き重要である。



お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピー
に関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **[@GNET_research](https://twitter.com/GNET_research)**

GNET のその他の出版物同様に、本レポートは GNET
のウェブサイト www.gnet-research.org から無料で
ダウンロードできます。

© GNET